交詢

◎母校だより

○校内の春も稍整へり、一教室の窓より淺みどりの空に描き出されし芙蓉の神姿の仰かるゝのみか、茗溪の流を隔てゝ、霞に沈む百万の府の見渡さるゝは何たる眺めぞや。

聖堂の梢は濃き淡き綠の、昔の夢を抱きて黃塵あくる街の車馬を睥睨せるは、碧空に輪を描く鳶のころと　好對の眺めぞと、3.4.5.教室にて歷史、文學史、國語、漢文を學びて後の休憩に窓よりのぞみし人は感するならむ。

6の地理教室よりは、バスケットボールに騷ぐ女學校の生徒、ボール投げに嬉々たる小學校の兒童、廻轉鞦韆、遊動圓木、シーソー等が絕間なく子供の相手せる等、少年と活動と春光と か、紅紫のリボンと共に、大運動場に翻へれるか見やられて別趣の感あり。

寄宿舍の各寮にも春漸く整はむとす。櫻は先づ花の寮(五ノ側)を推さゞるべからず、關西にては見えぬ濃艶なる花と色とか。枝と枝とを隙もあらせず咲きいでし春は曙。廊下ゆく紅顏の人々に映えて、蕩蕩たる趣もいま一ヶ月の後。昨今はふつくりと若き芽が枝毎にみかけられたり。梅の寮(二ノ側)の梅ははや散り果てたるも椿はいま光澤けき圓葉かくれに燃ゆるか如き花をつけたり、ボタリボタリと午後の日かけを横切りて、苔蒼き庭に落ち敷く靜寂さはこゝ二週間の內なる可し。若し鶯のころの配するあらはとそれのみ口惜し。梅と菊と(二ト一)の寮の間には、梅あり、桃あり、花梨あり。はた櫻あれと梧桐の淡紅き若芽に隣りて、桃花の夭夭たるは天下の春を盡したるの感あり、送別會の飾付けを試驗後廊下等にて營める折から、唱歌止めてふと立ちし刹那、窓の硝子越に燃ゆる色を見て「春だ」と今更繰り返すもはや三週日の後。更に花よりも若芽よりも學年試驗の山こゆれば、寄宿舍にては、無色の花無形の若芽、もえいで匂ひ出でゝ、笑聲、唱聲、到るところ天下の春なり。今年は十四日より試驗といへば、昨今は此所彼所の隅にノート繰る音のみきこゑて、花も若芽も物淋し氣なり。延ひむとする者、先縮み努力ありて後樂し。冬ありて春次くが如し。校內の春はかくのことにして漸く整はむとす。

○茗溪の櫻樹が年毎に寂ひるゝ慘ましさを歎して、駿河台の富豪薩摩治良助氏が、先代の志を承げて、更に聖堂前の河岸に、若木の幾十本を植ゑしめられぬ。幹太り枝張りて重げに潔よき花を咲かせる。幾年後の春色を思ひやる度に今更の如く寄附者の志をよろこぶ。

○第三學期は常に最も病人の(風邪)多い時であるにも關らず、今年は非常に少かつたのは誰も氣付いた事である。偶然だといへぬことも無いが必然であると言ひうる理由の確かなのは、校舍か東西に分れてより、教室より教室に、棲々遑々と學科を追ふて移るに就きては、師走の吹晒しの日でも、如月の霜の朝でも、中間の大運動場を横切らねばならぬために、割合に一室にのみ閉ち籠りて、居た從前に比して、皮膚か寒さに慣らされたからだと、一般に謂はれ　一般に肯首せられてゐる。とにかく、活動は常に活動を生み出す、他日教壇上で雄躍する旺盛なる元氣は斯かる裏に養はれるのであらふ。

○去る二月廿二日にはニコライ僧正の葬列が學校の前を通りて谷中の墓地に營まれた。朝來俄然吹き出した烈風は、葬列のとほる午後一時すぎには、一層狂つて、鐘樓から撞き出す鐘の神韻も心に響かぬ程であつた。白布に蔽はれた柩か近づいた時、僧正か日本に於ける五十餘年間を貫いて持せられた所信の確實さを思ふて、偉大なる人格と敬仰せられた。柩か行きすきて、松住町のあなたに見えなくなる迄も、鐘の響きも風の狂ひ聲が耳に入らなかつた。

心持に律のある事は悲しい事である。いくら强くても、やがて鈍ふる決心は、何の甲斐もなく緊張した心持の尊さも、ダレては却つて慘ましい、僧正は決心を鈍らせなかつた人て、緊張し

た心持を、ダラさずに、遂に其の生を終へられたのであつたと私は思ふ。人の信仰を司つてゐた僧正のみならず、人の心身の啓發を事とする我々も亦、斯かる意味の上に立たねばならぬのではありますまいか。

◎入會者（四十四年十一月以降）

栃木縣足利高等女學校（七〇）阿部やす
東京市小石川區竹早町七（未納）大野ゆき
長野縣立長野高女（七〇）鈴澤いさを
台北西門外街三、一九（七〇）手島博
福知山高女（七〇）富阪ゆき
宮城縣角田實科高女（七〇）橋本ひさね
麹町區四番町十四（七〇）藤尾けい
沖縄縣那覇高女（七〇）宮川ましね
朝鮮京城櫻ヵ町三七ノ二（一四〇）茂木げん
四十四年度會費未納者
上兼いさ　大野ゆき　江口折枝　河田照江
齋藤シネ　鹽見まん　福井ひさ　三宅よし
注貴すゑ　湯田ねい

◎會計報告

收入

一金　百十圓十錢匣　一、一八〇、　文科會々費生徒より徴收
一金　七六、九〇〇、　卒業生ノ會費
一金　二六、六二〇、　生徒雜誌實費
合計一〇四、七〇〇、

支出

一金　六四五、　廿回文科會開會費
一金　三二五、　雜費（切手はがき、原稿用紙、洋罫紙）
一金　一八〇、　電車賃（幹事、講演者へ交渉のため）
一金　五〇、〇〇〇、　會誌（第一號）印刷代
一金　五〇〇、　地圖（楊子江）紙代
一金　八一〇、　電車賃（二十二回文科會開會に付幹事の地學協會行講演者へ交渉の御禮）
一金　六五〇、　編輯雜費
一金　二、〇八〇、　會誌送料
一金　六、〇〇〇、　葉書代（卒業生へ會誌發行の紹介）
合計　六一、一九〇、
差引　四三、五一〇、

◎敬告

一、卒業生の方より質問欄を設けてはとの御申込みの有候ひしに由り先生とも相談の結果文科學術談話會編輯係宛にて御申込み下され候は、幹事責任を以て先生方に伺ひ本誌にて御答申し上げ候ふことに致し候尚回答は御急ぎの節には直ちに御本人宛に回答し置き後他の方々の御參考までに本會誌に掲載いたし申候ふまゝ御遠慮なく御申込み下され度候

一、四十五年度會費七十錢四月末日までに文科學術談話會部長下田次郎先生宛にて御送附下され度候

附錄

各科參考書目錄

以下の諸參考書は本年文科卒業生が各先生方に伺ひ奉りたるものと各自圖書室にて取調べたるものとを集めたるものなり、幸諸姉の御參考に資せばと請うて本誌に記載せり。

◎日本歷史普通參考書目

（一）通記類

一、大日本歷史（有賀長雄）二
一、大日本通史（萩野由之）（上）一
一、參考日本大歷史（青木武助）一
一、國史眼（重野、星野、久米、三氏）一
一、國史の研究（黑杉勝美）一
一、大日本時代史（藤澤、小島兩氏）一
一、日本歷史要義（竹越與三郎）一
一、二千五百年史
（特に現代に關するもの）
一、明治歷史（坪谷善四郎）二
一、大日本現代史（國府種德）二
一、明治四十年史（國民書院）一
一、開國五十年史（大隈伯撰）二

（二）制度に關するもの

一、日本制度通（萩野、小中村兩氏）三
一、日本法制史（三浦菊太郎）一
一、日本法制史（池邊義象）一
一、增訂日本古代法釋義（有賀長雄）一
一、官職制度沿革史（小中村清矩）一
一、官職要解（和田英松）一

（三）倫理幷に教育に關するもの

一、日本倫理史（湯本、石川兩氏）一
一、日本倫理學史（大江文城）一
一、日本武士道史（蜷川龍夫）一
一、日本儒學史（久保天隨）一
一、近世儒學史（久保天隨）一